



## 平成30年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成29年11月10日

上場会社名 株式会社トランスジェニック  
 コード番号 2342 URL <http://www.transgenic.co.jp>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 福永 健司

問合せ先責任者 (役職名) 経理財務部長 (氏名) 渡部 一夫

TEL 092-288-8470

四半期報告書提出予定日 平成29年11月13日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成30年3月期第2四半期の連結業績(平成29年4月1日～平成29年9月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第2四半期	855	13.2	81		89		73	
29年3月期第2四半期	985	31.1	3		19		22	

(注) 包括利益 30年3月期第2四半期 71百万円 ( %) 29年3月期第2四半期 51百万円 ( %)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第2四半期	5.05	
29年3月期第2四半期	1.59	

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
30年3月期第2四半期	3,901	3,317	84.8	226.19
29年3月期	3,902	3,173	81.0	220.20

(参考) 自己資本 30年3月期第2四半期 3,307百万円 29年3月期 3,160百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期		0.00		0.00	0.00
30年3月期		0.00			
30年3月期(予想)				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成30年3月期の連結業績予想(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,410	4.7	200	29.9	170	92.6	110	36.3	7.55

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

#### 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
以外の会計方針の変更 : 無  
会計上の見積りの変更 : 無  
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	30年3月期2Q	14,624,941 株	29年3月期	14,354,941 株
期末自己株式数	30年3月期2Q	1,421 株	29年3月期	1,421 株
期中平均株式数(四半期累計)	30年3月期2Q	14,507,618 株	29年3月期2Q	14,325,050 株

四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

#### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現時点で入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因によって大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績見通しのご利用に当たっての注意事項については、四半期決算短信(添付資料)4ページ「(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

なお、当社は、当第2四半期連結累計期間に、新株予約権の行使により、新たに普通株式270,000株を発行しており、業績予想の「1株当たり当期純利益」は当該株式を含めて算定しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	11

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、設備投資や雇用環境の改善など景気は緩やかな回復基調が続いておりますが、米国の政策動向や海外政治情勢の不安などにより、景気の先行きについては依然不透明な状況にあります。

当社グループが属するバイオ関連業界におきましては、人々の健康と豊かな生活の実現へ向け、産学連携による共同研究や企業の投資が活発化し、新製品の研究・開発が相次いでおります。

このような環境の中で、当社グループは、ジェノミクス事業においては、遺伝子改変マウス作製受託サービスの作製期間の短縮、さらにコスト低減が図れるゲノム編集技術(CRISPR/Cas9)を活用した受注に注力するとともに、コスト面では受注能力拡大を目的として製造及び販売両面において人員補強等の先行投資を行いました。また、アルツハイマー病モデルマウスとしてのAPP<sub>OSK</sub>マウス※1、野生型TAU※2トランスジェニックマウス及び精神・神経疾患モデルマウスについてライセンス契約を締結し、需要の高い中枢神経系モデルマウスのラインナップ拡充を図りました。さらに、資本業務提携先である(株)免疫生物研究所と、同社が所有する抗体について上記APP<sub>OSK</sub>マウスを用いた非臨床試験によるアルツハイマー病治療薬開発に取り組むべく、共同研究開発契約を締結いたしました。

CRO※3事業においては、既存の顧客との取引を拡大・深化させるとともに、新規顧客の開拓に注力し受注強化を図りました。また、非臨床試験の更なる受注拡大に向け、顧客(主に製薬企業)の多様なニーズに応えるため、新しい病態モデルの研究開発に取り組みました。重要施策であるジェノミクス事業との連携強化については、ジェノミクス事業が保有するAPP<sub>OSK</sub>マウスや精神・神経疾患モデルマウス等の有用な疾患モデルマウスを用いた中枢神経系非臨床試験での活用を推進してまいります。

先端医療事業においては、次世代シーケンサー※4を用いた肺がん・乳がん・卵巣がん・大腸がん・悪性黒色腫などを対象としたがんクリニカルシーケンス※5受託解析サービスを開始いたしました。また、本年8月に(株)日立ハイテクノロジーズと販売代理店契約を締結し、次世代シーケンサーを用いたがんクリニカルシーケンス受託解析サービスの営業強化につとめました。先端医療事業部においては、今後もクリニカルシーケンス事業の拡充を通じて、個別化医療に対して貢献するとともに業績拡大につなげてまいります。

病理診断事業においては、一層の品質向上及び事業効率化に取り組むとともに、豊富な病理診断技術を活かしたサービスの拡充に取り組んでまいりました。特に、子宮頸がんの早期発見に向け、自己採取を含むHPV※6併用検査サービスや、前期から開始した病理診断WEB報告システムにより付加価値を高めた病理診断サービスの営業及び受注拡大に注力いたしました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間における当社グループの業績は、売上高855,183千円(前年同期比13.2%減)、営業損失81,404千円(前年同期営業利益3,465千円)、経常損失89,997千円(前年同期19,449千円)、親会社株主に帰属する四半期純損失は73,334千円(前年同期22,730千円)となりました。

なお、当社グループの売上高は、季節的変動が著しく下半期に売上高が集中する傾向にあります。前連結会計年度は、期首時点の豊富な繰越受注残高を背景に、第2四半期連結累計期間売上高の連結会計年度売上高に占める割合が42.8%(前々連結会計年度は32.8%)であり、前々連結会計年度と比較して売上高が上半期に集中しておりました。当連結会計年度については、前連結会計年度と比較して期首の繰越受注残高は減少していたものの、受注残高は着実に積み上げており、売上高は前々連結会計年度と同様に、下半期により集中する見込みであります。

---

※1 APP<sub>OSK</sub>マウス : 大阪市立大学 森 啓 特任教授らが開発した、アルツハイマーに特徴的な加齢に伴った認知機能障害等が認められるマウス

※2 TAU : 中枢神経系に多量に存在し、脳内の神経軸索輸送に重要な働きを担う

※3 CRO : Contract Research Organization (医薬品開発業務受託機関)

※4 次世代シーケンサー : DNAを構成する塩基の配列を高速に読み取りゲノム情報を解読する装置で、得られた情報により病気の診断、治療、創薬に活用される

※5 クリニカルシーケンス : 次世代シーケンサーを用いて、がん細胞の遺伝子変異を網羅的に解析し、診断や治療の参考となる知見を得るための解析手法

※6 HPV : Human papillomavirus (ヒトパピローマウイルス)

セグメントの業績は、次のとおりであります。各セグメントの業績数値につきましては、セグメント間の内部取引高を含めて表示しております。

セグメント	売上高			営業損益		
	金額(千円)	前年同期比		金額(千円)	前年同期比	
		金額(千円)	増減率(%)		金額(千円)	増減率(%)
ジェノミクス事業	131,627	△50,498	△27.7	△7,681	△60,308	—
CRO事業	370,084	△115,491	△23.8	15,591	△66,565	△81.0
先端医療事業	160,723	37,241	30.2	4,437	48,161	—
病理診断事業	193,823	△8,913	△4.4	△4,983	△11,354	—

① ジェノミクス事業

当事業では、遺伝子破壊マウスの作製受託、モデルマウスの販売及び抗体作製受託、新規バイオマーカーの開発などを行っております。当第2四半期連結累計期間の業績は、期首受注残高が前年に比し減少していたことにより、売上高、営業損益につきまして前年同期比減収減益となりました。今後も、遺伝子操作技術の改良を推進し、遺伝子改変マウス作製受託サービスの向上を図るとともに、アルツハイマー病モデルマウス等のモデルマウスの販売促進に取り組んでまいります。

② CRO事業

当事業では、医薬品・食品の臨床試験受託及び薬理薬効試験、安全性薬理試験、薬物動態試験などの非臨床試験受託を行っております。当第2四半期連結累計期間の業績は、期首受注残高が前年に比し減少していたことにより、売上高、営業損益につきまして前年同期比減収減益となりました。なお、第3四半期以降の売上となる受注残高につきましては、当第2四半期末時点で、通期黒字幅の拡大に向け順調に推移しております。

③ 先端医療事業

当事業では、遺伝子解析受託サービス及び個別化医療に向けた創薬支援サービスを行っております。当第2四半期連結累計期間の業績は、遺伝子解析受託サービスが好調であったことにより、売上高は前年同期比増収となり、前年同期は損失であった営業損益につきましても利益を計上いたしました。引き続き、受注強化に努め、通期黒字幅の拡大を目指してまいります。

④ 病理診断事業

当事業は(株)ジェネティックラボの中核事業であり、病理専門医による豊富な診断実績及び最新のバイオマーカー解析技術による高品質な病理診断サービスを提供しております。当第2四半期連結累計期間の業績は、受託検体数の伸び悩みにより、売上高は前年同期比小幅減収となり、営業損益につきましては損失となりました。今後も、受託検体数の増加及び新規サービスの自己採取HPV検査の普及に取り組んでまいります。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における流動資産は1,713,078千円となり、前連結会計年度末に比べ15,977千円増加いたしました。これは主に、現金及び預金、仕掛品、その他の流動資産がそれぞれ、144,566千円、29,936千円、30,909千円増加した一方、受取手形及び売掛金が191,054千円減少したことによるものであります。固定資産は2,188,704千円となり、前連結会計年度末に比べ16,621千円減少いたしました。これは主に、有形固定資産の「その他」が43,280千円増加した一方、有形固定資産の減価償却39,847千円及び無形固定資産の「のれん」の償却18,577千円を計上したことによるものであります。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における流動負債は402,619千円となり、前連結会計年度末に比べ85,652千円減少いたしました。これは主に、未払金39,469千円、未払法人税等35,305千円、その他流動負債7,034千円がそれぞれ減少したことによるものであります。固定負債は181,727千円となり、前連結会計年度末に比べ59,098千円減少いたしました。これは主に、未払金への振替により長期未払金が57,805千円減少したことによるものであります。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産は3,317,434千円となり、前連結会計年度末に比べ144,107千円増加いたしました。これは主に、新株予約権の行使により資本金及び資本剰余金が合計で218,970千円増加した一方、親会社株主に帰属する四半期純損失73,334千円を計上したことによるものであります。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは19,936千円の収入(前年同期は102,522千円の収入)となりました。これは主に、税金等調整前四半期純損失89,997千円(前年同期は22,041千円の損失)に、売上債権の減少額191,054千円、たな卸資産の増加額31,374千円、仕入債務の減少額4,212千円、未払金の減少額65,622千円、法人税等の支払額47,916千円に、非資金費用の減価償却費の計上額41,820千円及びのれん償却費の計上額18,577千円、持分法による投資損失の計上額8,296千円等を調整したことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは27,243千円の支出(前年同期は179,613千円の支出)となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出21,481千円、敷金の差入による支出6,897千円等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは151,872千円の収入(前年同期は20,100千円の支出)となりました。これは長期未払金の返済による支出57,805千円、新株予約権の行使による株式の発行による収入216,000千円、その他支出6,322千円によるものであります。

以上の結果、当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ144,566千円増加し、1,203,747千円(前年同期末956,549千円)となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループの売上高は季節的変動が著しく、下半期に売上が集中する傾向にあります。

現時点におきましては平成29年5月12日に公表いたしました平成30年3月期通期の連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,059,180	1,203,747
受取手形及び売掛金	416,798	225,744
商品及び製品	4,551	4,910
仕掛品	123,085	153,022
原材料及び貯蔵品	27,063	28,141
その他	67,563	98,472
貸倒引当金	△1,142	△960
流動資産合計	1,697,101	1,713,078
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	1,050,471	1,053,762
減価償却累計額	△344,231	△363,848
建物及び構築物(純額)	706,239	689,913
土地	621,290	621,290
その他	513,408	556,688
減価償却累計額	△364,859	△385,089
その他(純額)	148,548	171,598
有形固定資産合計	1,476,078	1,482,802
無形固定資産		
のれん	119,056	100,478
その他	11,879	10,063
無形固定資産合計	130,936	110,541
投資その他の資産		
投資有価証券	515,263	507,983
その他	85,547	89,876
貸倒引当金	△2,500	△2,500
投資その他の資産合計	598,311	595,359
固定資産合計	2,205,325	2,188,704
資産合計	3,902,426	3,901,782

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	4,212	—
未払金	216,037	176,568
未払法人税等	45,650	10,344
賞与引当金	8,636	8,652
受注損失引当金	1,120	1,474
その他	212,614	205,580
流動負債合計	488,272	402,619
固定負債		
長期末払金	231,220	173,415
その他	9,606	8,312
固定負債合計	240,826	181,727
負債合計	729,099	584,347
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,718,017	2,827,502
資本剰余金	465,963	575,448
利益剰余金	12,490	△60,844
自己株式	△1,725	△1,725
株主資本合計	3,194,745	3,340,381
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△34,056	△32,614
その他の包括利益累計額合計	△34,056	△32,614
新株予約権	12,637	9,667
純資産合計	3,173,327	3,317,434
負債純資産合計	3,902,426	3,901,782



(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
売上高	985,669	855,183
売上原価	674,472	630,180
売上総利益	311,196	225,002
販売費及び一般管理費	307,731	306,407
営業利益又は営業損失(△)	3,465	△81,404
営業外収益		
受取利息	403	384
補助金収入	4,789	—
その他	841	1,515
営業外収益合計	6,034	1,899
営業外費用		
支払利息	508	393
持分法による投資損失	21,132	8,296
その他	7,308	1,802
営業外費用合計	28,949	10,492
経常損失(△)	△19,449	△89,997
特別利益		
関係会社株式売却益	1,892	—
持分変動利益	1,442	—
特別利益合計	3,335	—
特別損失		
固定資産除却損	2,800	—
投資有価証券清算損	3,127	—
特別損失合計	5,927	—
税金等調整前四半期純損失(△)	△22,041	△89,997
法人税、住民税及び事業税	2,202	2,886
法人税等調整額	△1,513	△19,549
法人税等合計	688	△16,662
四半期純損失(△)	△22,730	△73,334
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△22,730	△73,334

(四半期連結包括利益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)
四半期純損失(△)	△22,730	△73,334
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△28,376	1,441
その他の包括利益合計	△28,376	1,441
四半期包括利益	△51,106	△71,892
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△51,106	△71,892
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純損失(△)	△22,041	△89,997
減価償却費	33,990	41,820
のれん償却額	18,577	18,577
固定資産除却損	2,800	—
関係会社株式売却損益(△は益)	△1,892	—
投資有価証券清算損益(△は益)	3,127	—
貸倒引当金の増減額(△は減少)	541	△181
受取利息及び受取配当金	△414	△397
支払利息	508	393
持分法による投資損益(△は益)	21,132	8,296
持分変動損益(△は益)	△1,442	—
売上債権の増減額(△は増加)	198,619	191,054
たな卸資産の増減額(△は増加)	△59,055	△31,374
仕入債務の増減額(△は減少)	△24,481	△4,212
未払金の増減額(△は減少)	△35,568	△65,622
その他の資産の増減額(△は増加)	△2,128	1,588
その他の負債の増減額(△は減少)	△18,684	△1,533
小計	113,588	68,413
利息及び配当金の受取額	364	350
利息の支払額	△1,113	△910
法人税等の支払額	△10,317	△47,916
営業活動によるキャッシュ・フロー	102,522	19,936
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△108,396	△21,481
無形固定資産の取得による支出	△492	—
投資有価証券の取得による支出	△79,800	—
投資有価証券の清算による収入	3,965	—
関係会社株式の売却による収入	3,000	—
貸付金の回収による収入	620	633
敷金の差入による支出	△139	△6,897
その他	1,627	502
投資活動によるキャッシュ・フロー	△179,613	△27,243
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期末払金の返済による支出	△57,805	△57,805
新株予約権の行使による株式の発行による収入	46,415	216,000
その他	△8,710	△6,322
財務活動によるキャッシュ・フロー	△20,100	151,872
現金及び現金同等物に係る換算差額	△11	1
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△97,203	144,566
現金及び現金同等物の期首残高	1,053,753	1,059,180
現金及び現金同等物の四半期末残高	956,549	1,203,747

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報  
前第2四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年9月30日)

(単位:千円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	ジェノミクス 事業	CRO事業	先端医療事業	病理診断事業			
売上高							
外部顧客への売上高	182,125	481,435	117,721	202,736	984,019	1,650	985,669
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	4,141	5,760	—	9,901	△9,901	—
計	182,125	485,576	123,482	202,736	993,920	△8,251	985,669
セグメント利益又は損失(△)	52,627	82,156	△43,723	6,371	97,431	△93,965	3,465

(注) 1. 調整額は以下のとおりであります。

セグメント利益又は損失(△)の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用△95,615千円、持分法適用関連会社からのコンサルティング収入等1,650千円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年9月30日)

(単位:千円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	ジェノミクス 事業	CRO事業	先端医療事業	病理診断事業			
売上高							
外部顧客への売上高	131,627	366,274	159,958	193,823	851,683	3,500	855,183
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	3,810	765	—	4,576	△4,576	—
計	131,627	370,084	160,723	193,823	856,259	△1,076	855,183
セグメント利益又は損失(△)	△7,681	15,591	4,437	△4,983	7,365	△88,769	△81,404

(注) 1. 調整額は以下のとおりであります。

セグメント利益又は損失(△)の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用△92,269千円、各報告セグメントに含まれないコンサルティング収入3,500千円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失(△)と調整を行っております。